

一般科目の概要

「一般科目」の教育目標

自立した実践的技術者に要求される専門的知識および技術の修得に必要な基礎的な学力（論理的な思考力及び表現力、数理的能力、社会および自然に対する理解力、国際的に通用するコミュニケーション力等）と、基礎的な知識や教養の確実な定着を図り、自立した実践的技術者の形成に寄与することを目指します。

「一般科目」の教育内容

教育目標達成のための基礎となる教科を次のように配します。

- 1) 知徳体の調和した豊かな人間性を培い、柔軟かつ総合的に判断を下し実行する能力の基礎を身につけさせる。
「国語」「社会」「数学」「理科」「英語」「体育」「芸術」
選択科目（「人文社会」「自然」「外国語」）
- 2) 将来の社会の変化に技術者として自立的・主体的に対応できるように、広い視野に立って自ら学び自ら考える力を育成する。
「地理・歴史」「政治・経済」
- 3) 社会や自然環境に及ぼす技術の影響と効果を見極め、将来にわたって技術のあり方に責任を持とうと努める技術者倫理の基礎を身につけさせる。
「倫理」
- 4) 日本語力、英語力を高めると共に、論理的に思考し、的確に伝達するコミュニケーション能力を身につけさせる。
「国語」「英語」
- 5) 専門の基礎・基本となる知識を習得させる。
「数学」「物理」「化学」「地学」「生物」

全学科共通の「一般科目」は、1年から5年までのカリキュラム全体の約半分の授業時間数を占めており、低学年ほど「一般科目」の割合が高く、学年が上がるにつれて「専門科目」が増える、という「くさび」型のカリキュラム編成となっています。

高等専門学校では、大学への編入学等で進学するにしても特別の受験勉強は必要ありませんから、「一般科目」を通して5年間でしっかりした「教養」を養うことが目指されています。

自らの専門の基礎をなす土台を作るために、また、視野の広い市民としての見識や感覚を身につけるために、勉学に励む学生にとって頑張りがいのある教育の質を提供したい、と「一般科目」の教官は考えています。「一般科目」の教官は、工学系の領域とは異なるそれぞれの専門領域についての研究活動も行っていますので、学生諸君の主体的な知的好奇心にも幅広く応え得るものと確信します。

「一般科目」の授業科目と担当教官

区分	授業科目	単位	年 級					
			1年	2年	3年	4年	5年	
必修科目	国語	8	3全 2(限) 金 芳 1(各) 村田	3全 2(限) 村田 1(各) 村田	2全 2(限) M 村田 E 村田 C 金 芳 B 金 芳	2全 小林		
	倫理	2			2全 小林			
	政治・経済	2	1全 時 松	1全 時 松				
	地理・歴史	4	2M 吉 岡 佐藤・時松 E 吉 岡 佐藤・時松 C 吉 岡 時松・佐藤 B 吉 岡 佐藤・時松	2全 佐 藤				
	数 学	18	6M E 野入 C 小 原 B 元 田 小 林	6M E 小 林・川崎 C 野入・川崎 B 五 十 川	6M E 五 十 川・元田 C 野入・五 十 川 B 元 田・小 原 小 原・小 原			
	物 理	4		4M E 北 辻 C 吉 北 B 北 辻				
	化 学	4	4M E 上 土 井 C 上 土 井 B 上 土 井					
	保健・体育	9	3全 宅島・四宮 栗谷・坂川 田 中	2全 宅島・四宮 坂川・役本	2全 宅島・四宮 河野・役本	2全 宅島・四宮 栗谷		
	芸術音楽	1	1全 中 野	1全 中 野				
	英語	18	6M E 山田・ゲル C 平/木・ゲル B 松田・ゲル 折田・ゲル	5M E 折田・ゲル C 松田・ゲル B 折田・ゲル 松田・ゲル	5M E 平/木・ゲル C 関・ゲル B 平/木・ゲル 関・ゲル	2全 山 田		
修得単位小計	71	26	24	17	4			
選択科目	文化史	2				2 小 林		
	文学	2				2 村田・金芳		
	法 学	2				2 山 中		
	経済学	2				2 時 松		
	哲学	2					2 小 林	
	人文社会特論(健康科学)	2					2 今 西	
	健康科学	2					2 宅島・四宮	
自然	2		2M E 平 C 平 B 平					
生物	2		2B 原 嶋					
外国語	4				2 目	2 目		
中国語	4				2 宮 崎	2 宮 崎		
開設単位小計	26		4		12	10		
修得単位小計	6		2		2	2		
開設単位合計	97	26	28	17	16	10		
修得単位合計	77	26	26	17	6	2		

・「地学」「生物」…いずれか2単位。 ・「ドイツ語」「中国語」…4年次はいずれか2単位。
・「哲 学」「人文社会特論」「健康科学」…いずれか2単位。

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態
国語	金芳憲雄 村田由美	1全	3	必	週3時間通年
教科書・参考書等					
教科書：「新編国語I」金谷治 三省堂 副教材：「スタンダード常用漢字の学習R（レッド）コース」桐原書店					
授業目標・授業方針・学習方法・評価方法等					
<p>授業目標： 国語を的確に理解し、適切に表現する基本的能力を身につけさせる。 文学・芸術・思想・言語などの広い分野にわたる文章に触れさせ、思考力や感受性を育てる。</p> <p>授業方針： 評論・随筆・小説・詩歌・古典等、さまざまな文章を読解していく。 さらに国語常識についても、時間をかけて習得させる。</p> <p>学習方法： 週3時間を現代文2、古典1の配当で学習する。</p> <p>評価方法： 4回の定期試験を中心に、平常の小テスト、課題等を含めて総合的に評価する。</p>					
授業進度・内容					
前 期			後 期		
現代文	随筆・評論（一） " 小説（一）		現代文	随筆・評論（三） " 詩・短歌 " 随筆・評論（四）	
古文	入門 「徒然草」「枕草子」		古文	「伊勢物語」 漢文	「唐詩」
前期中間試験			後期中間試験		
現代文	随筆・評論（二） " 紀行 " 小説（二）		現代文	小説（三） " 随筆 " 評論（五）	
漢文	入門 「塞翁馬」		古文	「和歌」 漢文	「論語」
前期末試験			学年末試験		

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態
政治経済	時松雅史	1全	1	必	週1時間通年
教科書・参考書等					
教科書：『政治・経済 新訂版』都留重人ほか 実教出版 プリント資料配布					
参考書：『法とは何か』渡辺祥三 岩波新書 『憲法を読む』小林直樹 岩波新書					
授業目標・授業方針・学習方法・評価方法等					
<p>授業目標： 近代市民社会を形成した政治的諸原理を理解する。また、憲法は何のために存在するのか、国民にとってどういう意味をもっているのか、という基本的問題を理解する。さらに石油をはじめとする資源・エネルギー問題を扱うことにより国際政治の動向を理解する。</p> <p>授業方針： 教科書、プリントを丁寧に読み、論理的な思考力を身につける。</p> <p>学習方法： 解説をよく聞き、教科書、ノート丁寧に読む。</p> <p>評価方法： 定期試験を重視する。また授業ノートを評価の参考にする。</p>					
授業進度・内容					
時数	前 期		時数	後 期	
2	1. 国際社会の変容		3	8. 日米安保条約と日本の軍備	
2	2. 政治社会の特質		3	9. 平和主義と日本の防衛問題	
4	3. 民主政治の諸原理		4	10. 国際政治の課題と日本	
2	4. 日本国憲法の成立		5	11. 資源・エネルギー問題	
2	5. 日本国憲法の基本原理		学年末試験		
2	6. 日本国憲法と基本的人権				
1	7. 現代社会における人権				
	前期末試験				

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態
歴史(地歴)	佐藤伸二 時松雅史	1全	2(1)	必	週1時間通年
教科書・参考書等					
教科書：『世界史B 改訂版』荒井信一他 三省堂					
授業目標・授業方針・学習方法・評価方法等					
<p>授業目標：現代の世界がどのようにして成立してきたかについて、大筋を理解させる。</p> <p>授業方針：東ヨーロッパ世界・西ヨーロッパ世界・イスラム世界の特色と成立課程を理解させる。(東アジア世界については第2学年で日本史とのからみで取り上げる。)近代ヨーロッパ世界の形成と膨張の課程を理解させる。</p> <p>学習方法：よく話を聞き、教科書中の地図・年表を良く見て、大筋をつかむ。</p> <p>評価方法：年4回の定期試験を軸に評価する。</p> <p>*尚、前期はM科、B科を佐藤が、C科、E科を時松が担当し、後期はM科、B科を時松が、C科、E科を佐藤が担当する。</p>					
授業進度・内容					
時数	前期(後期)	時数	後期(前期)		
1	(1) 人類の進化と古代文明の発生	3	(1) 近代ヨーロッパと世界		
1	(イ) 人類の進化	2	(イ) ロビンソン物語		
1	(ロ) 人種と民族	2	(ロ) 大航海時代		
	(ハ) 農耕文化と古代文明		(ハ) プロテスタンティズムと商工業の発達		
2	(2) 古代オリエント世界	1	後期中間試験		
1	(イ) エジプトとメソポタミア		(2) 近代世界の展開		
1	(ロ) 音標文字と一神教	3	(イ) イギリスの産業革命		
	前期中間試験	2	(ロ) 産業革命と資本主義の確立		
	(3) 古代地中海世界	2	(ハ) アメリカ資本主義の展開と発達		
2	(イ) 古代ギリシャとヘレニズム	1	学年末試験		
1	(ロ) ローマ帝国の成立				
2	(ハ) ローマ帝国の成立とビザンツ帝国の成立				
2	(ニ) イスラム帝国の成立				
1	前期末試験				

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態
地理	吉岡威夫	1全	2(1)	必	週1時間通年
教科書・参考書等					
教科書：「詳説 地理B 最新版」山本正三他 二宮書店					
地図帳：「新詳高等地図 初訂版」帝国書院					
授業目標・授業方針・学習方法・評価方法等					
<p>授業目標：世界各地に展開するさまざまな生活のありさまを理解するために、生活を支えるいは規定するであろう自然環境に関して、基礎的な理解を得る。</p> <p>授業方針：教科書にある基本的知識の理解をさらに深めるため、毎時地理資料を準備し解説を加え、さらにこれらの知識の修得を前提に、分布、比較、因果関係など地理学習の3要素をもとに、多様な自然環境の理解を深めさせる。</p> <p>学習方法：毎時の予習・復習を勧める。ノートのみまとめ方を指導し、基礎知識の予習ページと授業時の新たな知見ページと復習ページにわけてまとめさせ、定期的にノートを点検し評価する。</p> <p>評価方法：4回の定期試験により、総合的に評価を行う。</p>					
授業進度・内容					
時数	前期	時数	後期		
8	□さまざまな地図と現代世界		□地球と環境問題		
	地図と写真でみる現代社会	4	熱帯林の破壊と熱帯の生活		
	地球と世界地図	4	砂漠化と乾燥地域の生活		
	地理情報の地図化	1	後期中間試験		
1	前期中間試験				
7	□自然環境と生活	4	酸性雨の増加と冷帯の生活		
	世界の地形環境	3	地球温暖化とその対策		
	世界の海洋と陸水	1	学年末試験		
	世界の気候環境				
1	前期末試験				

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態
数 学	野入 隆 元田康夫 小原康博 小鉢暢夫	1 全	6	必	週 6 時間通年
教科書・参考書等					
教科書：「新編 高専の数学 1 (第 2 版)」 田代嘉宏 難波完爾 森北出版 問題集：「新編 高専の数学 1 問題集 (第 2 版)」 田代嘉宏 森北出版					
授業目標・授業方針・学習方法・評価方法等					
<p>授業目標：初等関数の基本的性質を習得する。 計算力を身につけると同時に、論理的にまた総合的に考える力を養う。</p> <p>授業方針：各項目の説明、定理や公式の証明等を行い、実際に問題を解き理解を深める</p> <p>学習方法：毎日の予習・復習による積み重ねが大事である。教わった項目はすぐに問題解きを行い、定理・公式等を十分に理解し、その重要性を認識しよう。</p> <p>評価方法：主に各種の試験（定期試験 4 回、夏季共通試験、その他各教官が行う試験）で評価を行うが、レポートの提出状況、授業態度等も加味する。</p> <p>数学教室は学生の積極的な質問を待っています。</p>					
授業進度・内容					
時数	前 期	時数	後 期		
2 0 1 0 1 0	1 章 数と式 1 整式の計算 2 数	2 0	3 章 命題・等式・関数 8 関数とグラフ		
1 0 4	2 章 2 次関数・方程式・不等式 3 2 次関数 4 2 次方程式（複素数まで）	1 2 1 2	4 章 指数関数・対数関数 9 指数関数 10 対数関数		
2	前期中間試験	2	後期中間試験		
8 1 4	2 章 2 次関数・方程式・不等式 4 2 次方程式（続き） 5 2 次関数のグラフと不等式	1 4 1 0	5 章 三角関数 11 三角関数の定義 12 三角関数の性質		
1 0 1 2	3 章 命題・等式・関数 6 集合と命題 7 等式と不等式	1 0 1 0	13 加法定理とその応用 14 三角形の性質		
2	前期末試験	2	学年末試験		

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態
化 学	上土井 幸喜 境 雅子	1 全	4	必	週 4 時間通年
教科書・参考書等					
教科書：「精解化学 I B」黒田晴雄 他 数研出版 問題集：化学 I B 基礎ノート 数研出版 参考書：フォトサイエンス化学図録 数研出版					
授業目標・授業方針・学習方法・評価方法等					
<p>授業目標：物質相互間に存在する深い関連性を見出し、系統的かつ総合的に物質を理解する能力を身につけさせる。</p> <p>授業方針：化学に対する興味と理解を深めるために、各項目の説明に演示実験を加え、さらに数テーマの実験を行う。また、教科書や、問題集の問題も解く。</p> <p>学習方法：授業中の理解を確実にするために、予習・復習は必ず行い、問題意識をもって授業にのぞむ。教科書や、問題集の問題を自分で解き事項の整理や理解を一層深める。疑問を生じたら、そのまま放置しないでどんどん質問すること。</p> <p>評価方法：4 回の定期試験、夏季共通試験、その他小テスト、実験レポート等で評価を行う。</p>					
授業進度・内容					
時数	前 期	時数	後 期		
1 0 1 0 1 0 2	第 1 編 物質の構成と粒子の結合 物質の構成 粒子の結合 物質量と化学反応式 前期中間試験	1 0 1 0 1 0 2	酸と塩基の反応 酸化還元反応 電池と電気分解 後期中間試験		
4 6 6	第 2 編 物質の状態 物質の三態 気体 溶液	4 4 6	第 4 編 無機化合物の性質 典型元素とその化合物 遷移元素とその化合物		
1 0 2	第 3 編 物質の変化 熱化学 前期末試験	4 4 4 2 2	第 5 編 有機化合物の性質 有機化合物の分類と分析 脂肪族炭化水素 アルコールと関連化合物 芳香族化合物 糖とアミノ酸 学年末試験		

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態
保健体育	宅島 章 四宮一郎	1全	3	必	週3時間通年
	栗谷 敦 田中由美子				
教科書・参考書等					
副教材：適宜参考文献、資料等を配布する					
授業目標・授業方針・評価方法・学習方法等					
<p>1. 高専生活をおくる青年期のこの時期は、心身ともに成長が著しい時期にあり、環境（運動・栄養・休養）の善し悪しが、各人の成長に大きく影響することは明らかである。そこで、健康の保持・増進を図るための環境情報について、的確に伝授するとともに科学的な理解を深めさせ、日常生活において実践する能力を養う。また、高専教育という集団生活の中で不可欠な指導性、協調性、公共性など人格向上を目指した授業を展開していきたい。さらに、スポーツ、レクリエーションを通じて余暇の善用と生涯体育への能力を養成したい。</p> <p>2. 授業時間不足については、原則として学年評価をしない。</p> <p>3. 定められた体育服及び体育館シューズを着用しないものについては、原則として授業に参加させない。また、危険防止のため指輪、ピアス、ネックレス等の装身具の着用も禁止する。</p> <p>4. 公欠の届けは、体育科所定の用紙に記入の上、1週間前に担当教官に提出すること。</p> <p>1年生の保健体育は、3単位。内2単位は男子、女子を別々にまとめて男子3班、女子1班を編成し、トレーニング実践Ⅰ（男子のみ）、ハンドボール、陸上競技、バレーボール、ダンス（女子のみ）の4つの講座を巡回し、各担当教官の指導を受ける。</p> <p>各種目授業目的及び評価方法</p> <p>剣道：宅島 章</p> <p>〔目的〕我が国、古来の武術である剣道を通して伝統文化の伝承と「礼」を学ぶとともに、剣道の特性を理解して、基本動作を正しく身につけ、対人的技能に習熟する。また、相互に相手を尊重し、闘争的雰囲気の中でも理性を失わず、冷静にして公正な態度を維持し、自己の修養に努める。</p> <p>〔授業内容〕：14週（各クラスの修得状況によって進路状況が多少異なる）</p> <p>基本動作 1. 構えと体さばき、素振り 2. 防具の脱着法と収納法 3. 面打ちと受け方 4. 切り返し 5. 小手打ちと受け方 6. 胴打ちと受け方。 対人的技能 1. 二段、三段の技（小手→面、小手→胴、面→胴、面→面、小手→面→胴など） 2. 払い技（払い面、払い小手、払い胴） 3. 引き技（ひき胴、ひき面、ひき小手）</p> <p>〔評価〕伝統文化の理解、実践と基本技及び対人的技能の修得程度によって行う。</p> <p>保健：四宮一郎</p> <p>〔目的〕1) 生涯にわたって健康な生活を送るために、私たちの健康を阻害している要因や現代における健康の成立条件について理解を深めさせ、実践できる態度を育成する。2) 健康の保持増進にとって重要な要素である運動・栄養・休養の関係について知識を深めさせ、これからの学生生活に生かせる態度を養う。3) 心と体の関係について知らせ、欲求の拡大する青年期こそが自分を見つめなおす絶好の機会であることを学ばせる。</p> <p>〔授業内容〕</p> <p>1. 健康の考え方（2時間） 2. 生活行動と健康（7時間） 3. 精神の健康（6時間）</p> <p>〔評価〕2回の定期試験と出席状況、授業参加態度等を考慮して評価を行う。</p>					

授業目標・授業方針・評価方法・学習方法等
<p>A. トレーニング実践Ⅰ（柔道場）：田中由美子</p> <p>〔目的〕①健康の維持・増進にとっての運動の必要性を知り、トレーニングの基本を学び自分に応じたトレーニングを日常生活で実践する。②柔軟性に重点をおく</p> <p>〔授業内容〕</p> <p>授業方針、評価法の説明、トレーニングの内容と負荷のかけ方、食生活を含めた生活処方（第1週 トレーニング前測定（第2週）</p> <p>鉄アレー、チューブを用いたサーキットトレーニング（第3週～6週）</p> <p>トレーニング後測定（第7週）</p> <p>〔評価〕トレーニング効果を確認させるため、トレーニング前後に測定を行い、トレーニング期間中の生活のあり方と測定値の変化との関係を明らかにしたレポート提出による。</p> <p>B. 陸上競技（第1グラウンド）：栗谷 敦</p> <p>〔目的〕①走・跳・投を通してスポーツの原型を正しく、楽しく身につけさせる。②取り組む種目の記録向上及び技術の上達を目指したい。</p> <p>〔授業内容〕 1) 理論：各種目の特性及び技術について。 2) 実技 ①走の部：スタートダッシュ・リレー・100mハードル・3000m走 ②跳の部：走り高跳び、3段跳び ③投の部：砲丸投げ、ハンドボール投げ</p> <p>※上記種目をシーズンによって振り分けて実施する。</p> <p>〔評価〕各種目の記録及び技術、理解度を総合して評価する。また、出席状況、授業への参加態度等も考慮する。</p> <p>C. ハンドボール（第2グラウンド）：四宮一郎</p> <p>〔目的〕①ハンドボール競技の特性を理解し、ゲームを楽しむために必要な基本的攻撃・防御技術を身につけ、ゲームに対してはもちろん練習においても創意工夫ができるようにする。②ハンドボールのルールを十分に理解し、お互いに審判ができるようになる。</p> <p>〔授業内容〕 1) ハンドボールの特性及びルールの説明 2) 基本技術（パス・キャッチ、ジャンプシュート、ステップシュート、ランニングシュート） 3) フェイントの技術 4) ディフェンスの技術（ゴールキーパーも含む） 5) 連携プレー 6) チームプレー（攻撃のポジションとその役割、防御のポジションとその役割） 7) 簡易ゲーム</p> <p>〔評価〕パス、キャッチ、シュートの基本的な個人的技術および授業への参加態度、出席状況等を総合して評価する。</p> <p>D. バレーボールⅠ（第2体育館）宅島 章</p> <p>〔目的〕バレーボールⅠでは、基本であるパス（オーバー、アンダー）とレシーブの技術を重点的に習得し、2年生で行なうバレーボールⅡで楽しくゲームができる基礎づくりを行なう。</p> <p>〔評価〕頭上連続パス（100回）、1対1でのレシーブの技術と向上心。授業への貢献度等によって評価を行なう。</p>

授業目標・授業方針・評価方法・学習方法等	
<p>女子：ダンス（第1体育館）田中由美子 [目的] ①いろいろなダンスに取り組み、踊ることを楽しむ。②仲間と互いに協力して、パンブーダ ンスの動きづくりをし、リズムカルに楽しく踊る。③好きな曲を選び、集団性を生かした動きを振り 付け、楽しく踊る。 [授業内容] 1) オリエンテーション（授業方針、評価法の説明） 2) ウォーミング・アップ（エ アロビクス・ダンス、フォークダンス、社交ダンス等） 2) 創作ダンス（パンブーダンス、グルー プダンス） [評価] パンブーダンス、グループダンスを創作させ、ビデオ撮影を行い作品を評価する（集団性を 生かした動き）。また、動きをレポートにまとめ提出させる。さらに出席状況、授業への参加態度も評 価に加味する。</p> <p>水泳（プール）：宅島 章、四宮一郎、栗谷 敦、田中由美子 [目標] 水と常に親しみ、関わりの深い生活環境（島国）の中で生きていることを再認識させ、泳力 の必要性及び安全性を修得させる。また、生涯スポーツのひとつとして余暇を生き生きと楽しみ、全 身運動には最適なスポーツであることを認識させたい。 [授業内容] 1) オリエンテーション（心得、目標、評価、入水マナー等について） 2) 泳力測定 3) グループ分け・能力別練習 [評価] 50mタイムトライアルにて評価する。また、出席状況、授業への参加態度等も評価に加味 する。</p>	
授業進度・内容	
<p>集団訓練及び体力テスト 4/13、4/20、4/27</p> <p>1期 5/18 ～ 6/22 (5週) 1班 トレーニング実践Ⅰ、2班 陸上競技、3班 ハンドボール、女子 バレーボール</p> <p>2期 9/7 ～ 10/12 (5週) 1班 バレーボール、2班 トレーニング実践Ⅰ、3班 陸上競技、女子 ハンドボール</p> <p>3期 10/19 ～ 12/14 (6週) 1班 ハンドボール、2班 バレーボール、3班 トレーニング実践Ⅰ、女子 陸上競技</p> <p>4期 1/11 ～ 2/15 (6週) 1班 陸上競技、2班 ハンドボール、3班 バレーボール、女子 ダンス</p> <p>水泳 6/29、7/7、7/13 剣道 5/17 ～ 9/13 保健 10/4 ～ 2/14</p>	

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態
美術	中野和枝	1全	1	必	週1時間通年
教科書・参考書等					
別になし					
授業目標・授業方針・学習方法・評価方法等					
<p>授業目標及び方針： 絵画や彫刻などの純粋芸術としての「美術」としてより、実社会と の深い関わりがある「デザイン」の基礎として「形や色」を基本に、実技を主としたも のとする。 形は主にデッサンを中心とし、色は、三原色からの12色相環づくり、平面構成など。 形と色をまとめたものとして、C.D ジャケットなどの製作を通して「デザイン」の 一つの手法を学ぶ。</p> <p>学習方法： 物体を単純な形にすると、立方体や球などの基本の形となる。その形には 高さや幅や奥行があり、その比を正確にとらえ、光と影で表現する。 物体には必ず色がある。三原色（赤、青、黄）から生まれる色について学習し、その色 が生まれて来る過程や、隣り合う色によってその色が変わることなど体験する。</p> <p>評価方法： 各作品の平均点とする。</p>					
授業進度・内容					
時数		時数			
1	オリエンテーション	1	色についての話		
1	明度尺	1	12色相環台紙づくり		
5	立方体、球、円錐、円柱など、基本形 のデッサン（コンテ鉛筆による）	3	12色相環づくり（三原色による）		
4	基本形による平面構成 （コンテ鉛筆によるモノクロ表現）	1	メビウスの輪づくり		
		1	メビウスの輪デッサン 5ポーズ		
		6	メビウスの輪による平面構成		
		7	C.Dジャケット デザイン		

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態
英語 I (総合英語)	松田 由美 山田 章則 折田 充 宇ノ木寛文	1 年全	5	必	週 5 時間通年
教科書・参考書等					
教科書: 『POLESTAR English Course 1』 石黒昭博 他 数研出版 問題集: 『Workbook for POLESTAR English Course 1』 数研出版 『高校総合英語 Bloom サテライトノート』 桐原書店 『PRACTICE WORK フレッシュコース』 数研出版 参考書: 『高校総合英語 Bloom』 高橋邦年 他 桐原書店 『データベース 3000 基本英単語・熟語』 田中茂範 他 桐原書店 読み物: 『Love Story』 Erich Segal 桐原書店 『Rip Van Winkle and the Legend of Sleepy Hollow』 W. Irving 桐原書店					
授業目標・授業方針・学習方法・評価方法等					
授業目標: 「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の4技能にわたり、基礎・基本的な英語運用能力を習得すると共に、自発的な学習習慣を身につけさせる。また、英語学習に加え、外国の文化・習慣に目を向けさせる。					
授業方針: 主に「読み取り・聞き取り」の活動を通じて、学生に英語の基礎を身につけさせ、それを基盤として話したり、書いたりする活動を随時取り入れる。授業での言語活動に対して、学生の積極的な参加を重視し、その一環として身近な話題についての言語活動を課す。長期休暇中には、英語の読み物を課題として与え、比較的長い読み物を英語で読み、鑑賞する機会を作る。各長期休暇後には出された課題をもとに確認テストを実施する。また、語彙力養成のための単語テスト(週 1 回)や、基礎的な文法事項の習得のための総合問題集による指導も行う。2 年生に進級する際には、全員が実用英語技能検定 3 級の資格を取得できるようにする。					
評価方法: 授業への積極的な参加と、クラス全体の学習の深化に貢献する質問や言語活動への取り組みを高く評価する。そして、授業中の取り組み状況、定着度確認テスト、授業外で取り組む課題、加えて、定期考査を総合して評価する。					
授業進度・内容					
時数	前期	時数	後期		
3 5	1: A Few Thoughts on Communication 2: UP, UP, AND, AWAY! 3: The Story of Ice Cream	3 8	7: Freedom Is Coming Tomorrow! 8: Teaching Grandmother to Read 9: Plus Stress, Minus Stress		
2	前期中間試験	2	後期中間試験		
3 8	4: Jim Henson...From Puppets to Muppets 5: Manatees...Amazing Sea Mammals 6: Watch What Your Body Says	3 5	10: Without Valleys You Can't Have Mountains 11: The Internet Age 12: How to Save Our Mother Earth		
2	前期末試験	2	学年末試験		
*Rapid Reading と Supplementary Reading の扱いについては別途指示する。					

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態
English Conversation I	Gail Braybrooks	1 年全	1	必	週 1 時間通年
教科書・参考書等					
Textbook: <i>Gateways 1 -- Student's Book</i>					
Authors: Victoria Kimbrough and Irene Frankel					
Publisher: Oxford University Press					
授業目標・授業方針・学習方法・評価方法等					
The aim of this subject: Listening and speaking needed in everyday, real-world situations. Also, I hope it will give them the confidence to talk with English-speaking people.					
Teaching methods: The students will practice conversation skills in the classroom.					
Evaluation: Class participation and 2 semester tests.					
What to study: Practical English as used in daily life.					
授業進度・内容					
時数	前期	時数	後期		
1	Essential English Introductions	1	Breakfast foods		
1	Introducing yourself and others	1	Snack foods		
1	Common objects	1	Common daily activities		
1	Alphabet and numbers	1	Likes and dislikes		
1	Common occupations	1	Personal habits		
1	Asking about ownership	1	Kinds of restaurants		
1	Countries and Cities	1	Adjectives of nationality		
1	Times of the day	1	Outdoor and indoor recreation		
1	Articles of clothing	1	Common stores and services		
1	Talking about clothing, colors and prices	1	Parts of the body		
1	Talking about the weather	1	Family members		
1	Test Review	1	People's employment		
		1	Common menu items		
		1	Talking about dates		
		1	Department store shopping		
		1	Test Review		
1	Term Examination				
		1	Term Examination		

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態
国語	村田秀明 村田由美	2全	3	必	週3時間通年
教科書・参考書等					
教科書：「精選新国語Ⅱ」紅野敏郎 明治書院 副教材：「スタンダード常用漢字の学習R（レッド）コース」桐原書店					
授業目標・授業方針・学習方法・評価方法等					
<p>授業目標： 1年で身につけた知識や言語感覚、論理的な思考力や文学的な感受性に、さらに広がりや深み、正確さや柔軟性を加える。</p> <p>授業方針： 評論、随筆、小説、物語、詩歌、俳諧等、いろいろなジャンルの文章をさまざまな方法で読み解く。また、国語の常識、特に言語的要素を習得させる。</p> <p>学習方法： 週3時間を現代文2、古典1の配当で学習する。</p> <p>評価方法： 4回の定期試験を中心に、平常の小テスト、課題の提出状況等を含めて総合的に評価する。</p>					
授業進度・内容					
前 期			後 期		
現代文	自然と人生—随想— 小説（一）		現代文	人と生活—随想— 小説（二）	
古文	「方丈記」 「枕草子」		古文	「更級日記」	
漢文			漢文	「史記」	
前期中間試験			後期中間試験		
現代文	文化と創造—評論— 言語と表現		現代文	意見と表現 詩と短歌と俳句	
古文	「平家物語」		古文	「俳諧」 「源氏物語」	
漢文	「桃花源記」				
前期末試験			学年末試験		

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態
政治経済	時松雅史	2全	1	必	週1時間通年
教科書・参考書等					
教科書：『政治・経済 新訂版』都留重人ほか 実教出版 プリント資料配布					
授業目標・授業方針・学習方法・評価方法等					
<p>授業目標： 現在ロシアをはじめとする旧社会主義諸国では市場経済化が進みつつある。こうした市場経済を支える基本的な仕組みを理解する。さらに日本経済の動きを世界経済との関連の中で学ぶ。</p> <p>授業方針： 教科書、プリントを丁寧に読み、見ていく。</p> <p>学習方法： 授業中に出てきた用語をその日のうちに整理する。教科書、ノートを丁寧に読み、理解する。</p> <p>評価方法： 定期試験を重視する。また授業ノートも評価の参考にする。</p>					
授業進度・内容					
時数	前 期		時数	後 期	
3	現代経済のしくみ 1. 市場の働き 市場のメカニズム		4	国民経済と国際経済 5. 国際経済の原理 国際分業の利益について	
3	2. 現代の企業 株式会社について		4	6. 国際経済の展開と現状 自由貿易体制の発展	
5	3. 金融と財政の役割 経済政策について		3	7. 世界経済の中の日本	
4	4. 景気変動と経済成長		4	8. 日本の農業と食料問題 食料の安全保障について	
	前期末試験			学年末試験	

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態
歴史(地歴)	佐藤伸二	2全	2	必	週2時間通年
教科書・参考書等					
教科書：『日本史B』 尾藤正英他 東京書籍 『新世界史』 神田信夫他 山川出版					
授業目標・授業方針・学習方法・評価方法等					
<p>授業目標：日本が東アジア諸国とどのようにかかわって来たかを理解させ、今後のかかわり方について考えさせる。</p> <p>授業方針：中国を中心とした東アジアの国際社会の特質(冊封体制)を理解させる。江戸時代の対外関係について正しく理解させる。これらを踏まえて、明治以降の日本の動き(脱亜入欧)について考えさせる。</p> <p>学習方法：話をよく聞く。教科書にある地図や年表を見て、おおまかな時代の流れを頭に入れる。</p> <p>評価方法：年4回の定期試験の結果を軸に評価する。</p>					
授業進度・内容					
時数	前期	時数	後期		
5	1. 日本列島の形成と日本人の起源 (イ) 更新世の日本列島 (ロ) 気候の温暖化と縄文文化 (ハ) 日本人の起源についての諸説	8	4. ヨーロッパ人のアジア進出と日本の対応 (イ) 地理上の発見とイエズス会の活動 (ロ) 秀吉・家康の対外政策		
10	2. 古代東アジア世界と日本 (イ) 秦・漢帝国と弥生文化 (ロ) 邪馬台国の位置 (ハ) 騎馬民族の活動と朝鮮半島の情勢 (ニ) 渡来人と古墳文化 (ホ) 隋帝国の朝鮮半島政策と推古朝 (ヘ) 唐帝国の朝鮮半島政策と遣唐使	10	5. 江戸時代の日本とヨーロッパ (イ) 南蛮人と紅毛人 (ロ) 吉宗の政策と蘭学の発展 (ハ) ヨーロッパ列強のアジア進出 (ニ) ロシアの進出と北方探検 (ホ) 開国と幕末の改変		
1	前期中間試験	1	後期中間試験		
14	3. 中国経済の発達と中世の日本 (イ) 宋王朝の政治と経済の発達 (ロ) 日宋貿易 (ハ) 元 (ニ) 日明貿易 (ホ) 琉球王国の発展	12	6. 日本の近代化と東アジア (イ) 琉球処分 (ロ) 条約改正 (ハ) 日清戦争 (ニ) 日露戦争 (ホ) 日本人のアジア観 (ヘ) 第1次世界大戦 (ト) 満州事変		
1	前期末試験	1	学年末試験		

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態
数学	野入 隆 五十川 誠 小鉢暢夫 小原康博	2全	6(4)	必	週4時間通年
教科書・参考書等					
教科書：「新編 高専の数学1(第2版)」 田代嘉宏 難波完爾 森北出版 「新編 高専の数学2(第2版)」 田代嘉宏 難波完爾 森北出版 問題集：「新編 高専の数学2問題集(第2版)」 田代嘉宏 森北出版					
授業目標・授業方針・学習方法・評価方法等					
<p>授業目標・方針：「高専の数学1」の第5章三角関数の三角形の性質を習得し、「高専の数学2」の微分積分法に関する部分を説明する。第1章数列、第2章微分法および第3章積分法を習得する。必要事項の説明が終わると教科書および問題集の問題解きを主体に授業が進められる。</p> <p>学習方法：微分概念をしっかりと把握し、その手法になれること。問題解きを充分に理解を深めること。進度は少しずつではあるが、常に新しい概念が導入されるので、その都度充分な理解を示すよう努力しよう。</p> <p>評価方法：主に各種の試験(4回の定期試験、春季および夏季試験、その他各教官が行う試験)で評価を行うが、レポートの提出状況、出席状況、授業態度等も加味する。</p> <p>必要な予備知識：1年で習った初等関数の基本的性質を充分に理解しておくこと。</p> <p>数学教室は学生の積極的な質問を待っています。</p>					
授業進度・内容					
時数	前期	時数	後期		
6	「新編 高専の数学1」 7章 個数の処理 18 場合の数と二項定理	8	5 いろいろの関数の導関数(続き)		
16	「新編 高専の数学2」 1章 数列 1 数列とその和	10	6 対数関数・指数関数・三角関数の導関数		
8	2 無限数列	12	7 導関数の応用		
2	前期中間試験	2	後期中間試験		
12	2章 微分法 3 整式の導関数	10	3章 積分法 8 不定積分		
12	4 関数の増減	10	9 定積分		
6	5 いろいろの関数の導関数	10	10 定積分の応用		
2	前期末試験	2	学年末試験		

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態
数 学	五十川誠 川崎信夫	2全	6(2)	必	週2時間通年
教科書・参考書等					
教科書：「新編 高専の数学1 (第2版)」 田代嘉宏 難波完爾 森北出版 「新編 高専の数学2 (第2版)」 田代嘉宏 難波完爾 森北出版 問題集：「新編 高専の数学1 問題集 (第2版)」 田代嘉宏 森北出版 「新編 高専の数学2 問題集 (第2版)」 田代嘉宏 森北出版					
授業目標・授業方針・学習方法・評価方法等					
<p>授業目標・方針：代数系列を習い空間図形とベクトルまでを習得する。1次曲線、2次曲線の基本的事項を講義し、平面および空間図形の基本的性質をベクトルを用いて取り扱う。</p> <p>学習方法：ベクトルを用いて、図形の取扱が出来るようにし、幾何学的イメージを養うようにすること。具体的な問題を解くことにより理解を深めること。</p> <p>評価方法：主に各種の試験（4回の定期試験、春季および夏季試験、その他各教官が行う試験）で評価を行うが、レポートの提出状況、出席状況、授業態度等も加味する。</p> <p>数学教室は学生の積極的な質問を待っています。</p>					
授業進度・内容					
時数	前 期	時数	後 期		
8	「高専の数学1」 6章 平面上の図形 15 点と直線	5	1 1 ベクトル (内積)		
6	1 6 円と2次曲線 (円・楕円)	9	1 2 平面のベクトルと図形 後期中間試験		
2	前期中間試験	1 4	1 3 空間の図形とベクトル 1 空間の座標 2 空間のベクトルの成分 3 内積 4 直線の方程式 5 平面の方程式 6 球の方程式		
5	1 6 円と2次曲線 (双曲線・放物線・2次曲線) 1 7 不等式と領域		学年末試験		
4					
5	「高専の数学2」 4章 ベクトルと図形 1 1 ベクトル				
2	前期末試験				

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態
物 理	北辻 安次 吉沖 周三	2全	4	必修	週4時間通年
教科書・参考書等					
教科書：「新訂物理I B」 有馬朗人他著 大日本図書 問題集：「ネオバル新物理I B」 第一学習社					
授業目標・授業方針・学習方法・評価方法等					
<p>授業目標：力学、熱、波動に関する基礎的項目の理解と習得を目指す。</p> <p>授業方針：使用する教科書に沿って授業を行うが、適宜、実験を演示することにより理解をうながす。また、学生自身による実験も進度に応じて実施する。項目の進度に応じて教室で問題解答例と添削を行う。</p> <p>学習方法：受講者は、教科傍用の問題集を利用して、各自ですすんで自宅学習を行うことが必要不可欠である。授業においては、物理的概念の把握を目標とするので、復習、問題解答、実験及び観察を通じてそれらを自分のものとするように自ら努力する。</p> <p>評価方法：年4回の定期テストで主に学習及び習得度の評価を行うが、その他に随時行うテストや、実験レポート、感想文などの提出物の評価及び授業参加の態度などの平常の評価も加えて総合的に評価を行う。</p>					
授業進度・内容					
時数	前 期		時数	後 期	
4	・力学・ 等速直線運動		4	・熱と波動・ 温度と熱、比熱と熱容量	
4	速度の合成と分解		2	ボイルシャルルの法則	
4	速度と加速度、等加速度運動		2	熱の仕事当量	
4	落下運動		4	内部エネルギー、断熱変化	
4	力の合成と分解		4	円運動と単振動	
4	力のつり合い		4	波動と正弦波	
6	運動の法則		2	縦波と横波	
2	前期中間テスト		4	重ね合わせの原理と干渉	
4	摩擦のある運動		4	波の反射・屈折・回折	
4	運動量と力積		2	後期中間テスト	
6	運動量保存法則		4	音速・音波の性質、うなり	
4	仕事、仕事率		4	弦の振動と気柱の振動	
4	運動エネルギー・位置エネルギー		4	共鳴と共振	
4	力学的エネルギー保存法則		4	ドップラー効果	
4	保存力と非保存力		4	光速、光の反射・屈折	
2	前期末テスト		4	光の干渉、ヤングの実験	
			4	回折格子、薄膜による干渉	
			2	光のスペクトル、レンズの公式	
			2	学年末テスト	

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態
保健体育	宅島 章 四宮一郎 粟谷 敦 笹本勝義	2全	2	必	週2時間通年
教科書・参考書等					
副教材：適宜参考文献、資料等を配布する					
授業目標・授業方針・評価方法・学習方法等					
<p>1. 高専生活をおくる青年期のこの時期は、心身ともに成長が著しい時期にあり、環境（運動・栄養・休養）の善し悪しが、各人の成長に大きく影響することは明らかである。そこで、健康の保持・増進を図るための環境情報について、的確に伝授するとともに科学的な理解を深めさせ、日常生活において実践する能力を養う。また、高専教育という集団生活の中で不可欠な指導性、協調性、公共性など人格向上を目指した授業を展開していきたい。さらに、スポーツ、レクリエーションを通じて余暇の善用と生涯体育への能力を養成したい。</p> <p>2. 授業時間不足については、原則として学年評価をしない。</p> <p>3. 定められた体育服及び体育館シューズを着用しないものについては、原則として授業に参加させない。また、危険防止のため指輪、ピアス、ネックレス等の装身具の着用も禁止する。</p> <p>4. 公欠の届けは、体育科所定の用紙に記入の上、1週間前に担当教官に提出すること。</p> <p>2年生は男子、女子を別々にまとめて男子3班、女子1班を編成し、トレーニング実践Ⅱ、手具体操・救急法、バドミントン、バレーボールの4つの講座を巡回し、各担当教官の指導を受ける。</p> <p>各種目授業目的及び評価方法</p> <p>A. トレーニング実践Ⅱ（柔道場）：四宮一郎 [目的] トレーニング実践Ⅱでは、トレーニング実践Ⅰを基礎として、各種スポーツに必要な筋力、柔軟性を高めることに重点を置いて展開し、トレーニング効果をjつて気づかせると同時に、日常生活で実践できる能力と態度を育てる。 [授業内容] 1) オリエンテーション（授業の目標・心得等）、トレーニングの内容と負荷のかけ方 2) トレーニング前測定 3) バーベル、鉄アレー、トレーニングチューブを用いたサーキットトレーニング 4) トレーニング後測定 [評価] トレーニング効果をj確認させるため、トレーニング前後に測定を行い、トレーニング期間中の生活のあり方と測定値の変化との関係を明らかにしたレポート提出による。</p> <p>B. 救急法・伝承文化遊具（第1体育館、グラウンド）：粟谷 敦 [目的] 救急法：心配蘇生法を学ぶことによって人命の尊さ、命の大切さを認識させ、非常時の応急手当てを身につけさせる。 伝承文化遊具（なわとび、けんだま、ちょんかけ）：日本古来から受け伝えられた遊戯を身につけることによって童心にかえり、その良さを認識し後世に受け継がせたい。 [授業内容] 救急法：心配蘇生法及び緊急時の対処法、ビデオ及びダミーによるグループ指導。 伝承文化遊具：基本の反復練習。段階を経て高度な技術を修得する。※3種目をグループによる展開 [評価] 技術の習熟度及び理解度を総合して評価する。</p>					

授業目標・授業方針・評価方法・学習方法等	
<p>C. バレーボールⅡ（第2体育館）：宅島 章 [目的] バレーボールⅠでの基礎から、2年次はトス・スパイク・サーブなどの攻撃力を加え、応用・試合へと展開する。 [評価] チームにおける自己の役割を認識し、チームへの貢献度と総合的技術や出席状況、授業態度等によって評価を行なう。</p> <p>D. バドミントン（第1体育館）：笹本勝義 [目的] 1) 減速製の大きいシャトルをラケットを用い、ネットを挟んでコート両サイドで交互に打ち合う競技であり、規定のコート内にシャトルを打ち返せない時に勝敗がつく。したがって相手が返し損ねるように打つ技能と、相手の打球を捕らえに行く移動の技能を修得し、それらをダブルスやシングルス形態でプレーできるようにする。 2) ゲームに参加していくための意欲や関心、態度そして自分の健康や安全への配慮、又、集団としての健康や安全などに配慮する態度を養う。 3) 必要なルールを学び、試合の管理・運営・審判ができる能力とゲームを楽しむ心の豊かさを養う [授業内容] 1) オリエンテーション（授業の目標・心得等）、グループ分け 2) フライトの基本練習（ドライブ、クリアー、ドロップ、スマッシュ、ヘアピン）、半面ゲーム 3) 基本技術の練習（フライト、サーブ、フットワーク）、半面の簡易ゲーム 4) フライトの練習（各種連続）、正式ルールの説明と試合運営全般 試合 5) シングルス、ダブルスの試合（ランク別リーグ戦） 評価 6) シングルス、ダブルスの試合（ランク別リーグ戦） 評価 7) 団体戦の試合、理論のテストとアンケート調査 まとめ 評価 [評価] 1. 基本技能とゲーム結果の総合評価 2. 授業への参加態度（意欲・協調性・積極性・ルールを守る態度）の評価 3. 健康な生活への取り組みと実践的態度の評価</p> <p>水泳（プール）：宅島 章、四宮一郎、粟谷 敦、笹本勝義 [目標] 水と常に親しみ、関わりの深い生活環境（島国）の中で生きていることを再認識させ、泳力の必要性及び安全性を修得させる。また、生涯スポーツのひとつとして余暇を生き生きと楽しみ、全身運動には最適なスポーツであることを認識させたい。 [授業内容] 1) オリエンテーション（心得、目標、評価、入水マナー等について） 2) 泳力測定 3) グループ分け・能力別練習 [評価] 50mタイムトライアルにて評価する。また、出席状況、授業への参加態度等も評価に加味する。</p>	
授業進度・内容	
集団訓練及び体力テスト 4/17、4/24	
1期	5/1 ~ 6/19 (7週) 1班 トレーニング実践Ⅱ、2班 救急法・伝承文化遊具、3班 バドミントン、女子 バレーボールⅡ
2期	9/4 ~ 10/23 (7週) 1班 救急法・伝承文化遊具、2班 バドミントン、3班 バレーボールⅡ、女子 トレーニング実践Ⅱ
3期	10/30 ~ 12/18 (7週) 1班 バドミントン、2班 バレーボールⅡ、3班 トレーニング実践、女子 救急法・伝承文化遊具
4期	1/15 ~ 2/19 (7週) 1班 バレーボールⅡ、2班 トレーニング実践Ⅱ、3班 救急法・伝承文化遊具、女子 バドミントン
水泳 7/3、7/10、7/18	

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態
音楽	牧 智信	2全	1	必	週1時間通年
教科書・参考書等					
教科書： 学生のための「音楽と鑑賞」 市川都春・滝本泰三 教育芸術社					
資料： 自作プリント資料 「音楽史による作曲家と時代背景」					
授業目標・授業方針・学習方法・評価方法等					
<p>授業目標： 音楽の美しさ楽しさにふれ、音楽鑑賞から得た体験をとうして、これからの生活に潤いが生まれ、生涯学習の一助となる知識と感性を養う。</p> <p>授業方針： 音楽史と大作曲家による名曲鑑賞を主内容とし、名曲の鑑賞を通して音楽家に親しみ、その生涯と時代背景などを理解しながら多面的な学習を行う。</p> <p>学習方法： 名曲鑑賞を毎時実施する。音楽史をひもときながら、各時代を代表する作曲家の生涯や作品（歌曲・ピアノ曲・器楽曲・交響曲等のジャンル別の分類や特徴）を音楽や映像を通して理解を深める。</p> <p>評価方法： 学年末試験を行うとともに、レポートの提出、授業への参加、関心、態度等を加味して評価を行う。</p>					
授業進度・内容					
時数	前期	時数	後期		
1	1. 音楽の基本事項 音楽史の概念と音楽表現や鑑賞における基本事項の理解	7	5. ロマン派前期の音楽 シューベルト、ウーバー、ロッシニー、メンデルスゾーン、ショパン、シューマン、リスト		
2	2. 中世・16世紀の音楽 グレゴリオ聖歌 ルネサンスと教会音楽	6	6. ロマン派後期・国民学派の音楽 ワーグナー、ベルディ、ビゼー、J.シュトラウス、ブラームス、スメタナ、チャイコフスキー、ドボルザーク、グリーグ、サンサーンス、ドビュッシー、ほか		
5	3. バロックとロココ音楽 パーセル、ビバルディ、バッハ、タルティーニ、ヘンデル				
9	4. 古典派の音楽 ハイドン、モーツァルト、ベートーベン	4	7. 近世・現代の音楽 ラベル、ストラヴィンスキーほか 民族音楽と国際理解		

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態
英語 II (総合英語)	折田 充、 松田由美	2年全	4	必	週4時間通年
教科書・参考書等					
教科書：『PROGRESSIVE English Course II』 高橋康也 他 尚学図書					
問題集：『PROGRESSIVE English Course II Revised Editon Workbook』 尚学図書					
『PROSPECT II 英語総合問題演習』 千葉元信 桐原書店					
参考書：『四訂版チャート式基礎からの新総合英語』 高橋 潔 他 数研出版					
『データベース 3000 基本英単語・熟語』 田中茂範 桐原書店					
『MINI WORLD 第 77 号』 (株)ミニ・ワールド					
『Osamu Tezuka』 J. P. Macadam 啓林館					
授業目標・授業方針・学習方法・評価方法等					
<p>授業目標： 基礎的コミュニケーション能力育成のために、英語 I で習得した「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の 4 技能についていっそうの充実を図る。また、基本的な文法事項の定着を図り、語彙力を増強させる。</p> <p>指導方針： 基本的に、「英語 I」における授業方針に基づく。平常の授業（特に、授業中のコミュニケーション活動など）においては、学生の授業への積極的な参加を重視する。「読むこと」に関しては、確実に予習がなされていること。長期休暇中には、英語の読み物を課し、独力でまとまった英文を読めることを目指す。各休明けには、課題テストを実施する（具体的な課題は授業中に指示）。併せて、週 1 回の語彙力増強のための単語テストや週末の発展的な課題を課す。これらに対する確実な取り組みによって、3 年生進級時には、全員が実用英語検定試験準 2 級には合格していることを望む。</p> <p>評価方法： 授業への積極的参加と、クラス全体の学習の深化に貢献する質問や言語活動への取り組みを高く評価する。授業中の取り組み状況、定着度確認テスト、授業外で取り組む課題、加えて、定期考査の成績を総合的に評価し、評点を出す。</p>					
授業進度・内容					
時数	前期	時数	後期		
3 3	1: This Is Australia 2: America's Favorite Painter 3: Why and Because 前期中間考査	3 3	7: Antarctica---Past and Present 8: The Miraculous Photograph Record 9: The Big and the Small 10: Escape from Time 後期中間考査		
2		2			
2 3	4: Neighbors 5: The Story of Tea 6: Who's Hu? 前期期末考査	2 3	11: The Value of Science 12: My Search for Roots 13: The Red Dog 学年末考査		
2		2			
(注)『MINI WORLD 第 77 号』は、5 月中旬に発売。書店より届き次第、配布する。扱いについては、別途指示する。					

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態
English Conversation II	G. A. Davies	2 年全	2	必	週 1 時間通年
教科書・参考書等					
Textbook: <i>Gateways 2 - Student's Book</i>					
Authors: Victoria Kimbrough and Irene Frankel					
Publisher: Oxford University Press					
授業目標・授業方針・学習方法・評価方法等					
The aim of this subject: Is to develop the practical use of English conversational skill. To direct the students' attention to essential information in the conversation and let them know they can get the gist of a conversation without knowing every word.					
Teaching methods: Consist of a variety of oral-exchange exercises, fill-in exercises, completion exercises and written exercises based on authentic tasks. These are followed by exercises that personalize the practice.					
Evaluation: Is by the use of tape cassette exercises, fill in exercises and sentence completion.					
What I want the students to study: Is the practical use and skills of English conversation in everyday authentic tasks such as seeking and using transportation, housing and employment.					
授業進度・内容					
時数	前期	時数	後期		
1	Basic vocabulary sets	1	Phone conversations		
1	Asking and answering general information	1	Hotel rooms		
1	Adjectives used to describe personality	1	Hotel locations		
1	Using physical descriptions to identify people	1	Expressing surprise		
1	Verbs used in giving directions	1	Expressing interest		
1	Asking for and giving directions	1	Vacation and leisure-time activities		
1	Features of rooms, furniture and appliances	1	Talking about future plans		
1	Talking about homes	1	Picnic foods		
1	Describing places, foods and hotels	1	Important life events		
1	Aspects of people, nightlife, hotels etc.	1	Phrases used in giving excuses		
1	Famous people and places	1	Likes and dislikes		
1	Talking about movies	1	Describing feelings and emotions		
1	Common vacation activities	1	How one feels and why		
1	Vacation places	1	Making predictions		
1	Major life events	1	Future time expressions		
1	Term Examination		Term Examination		

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態
生物学	原 嶋 修 一	2 B	2	必	週 2 時間通年
教科書・参考書等					
教科書: 新生物 I B (第一学習社) 参考書: 増補 最新図表生物 (浜島書店)					
授業目標・授業方針・学習方法・評価方法等					
授業目標: 生物に関する基本的知識を身につけ、生命について理解する。					
授業方針: 高等学校での「生物」の内容に準拠し、生物学の基本的事項を講義する。生命の基本単位である細胞の構造を理解させ、生命の連続性を支える生殖と発生、生命活動の源である物質代謝について講義する。遺伝現象および生物工学に必須な遺伝子発現についてその概略を理解させる。さらに、生物の進化や生態についても簡単にふれる。					
学習方法: 毎回、必ず復習すること。復習は短時間で済むので授業した部分については必ず復習し理解につとめること。					
評価方法: 定期試験で評価する。レポートや授業態度も加味する。					
授業進度・内容					
時数	前	期	時数	後	期
2	1. 「生物学」の学習にあたって		6	7. 物質代謝	
			4	同化～光合成・窒素同化	
4	2. 生命の基本単位—細胞		2	異化～酵素呼吸・無気呼吸	
	細胞の構造、細胞小器官のはたらき			エネルギーの利用	
4	3. 細胞分裂		4	8. 遺伝	
	体細胞分裂と減数分裂			メンデルの遺伝の法則	
4	4. 生殖		2	後期中間試験	
	無性生殖と有性生殖		2	遺伝子と染色体	
2	配偶子形成と受精		2	変異	
	生物の生活環		2	9. 遺伝子と形質発現	
3	前期中間試験		2	遺伝子の本体	
3	5. 動物の発生・その過程		4	遺伝情報の発現	
3	発生のしくみ		3	10. 生物の進化	
2	植物の発生		3	11. 生物の生態	
	6. 生体内の化学反応			学年末試験	
2	生体構成物質				
6	酵素の性質と酵素反応				
	前期末試験				

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態
地学	平晋一郎	2 MEC	2	必	週2時間通年
教科書・参考書等					
教科書：「地学ⅠB」 海野和二郎、上田誠也、鎮西清高ほか9名 東京書籍					
授業目標・授業方針・学習方法・評価方法等					
<p>授業目標：宇宙の構成や太陽系の運動、地球の歴史と地球表面の諸現象の基礎的な知識を習得し、地球環境保全や災害防止に対する科学的な思考能力を養う。</p> <p>授業方針：地学の特質を理解させるために、できるだけ具体的な事例を取り上げ、正しい自然観を育成させる。</p> <p>学習方法：気象、天文、地震、火山などの自然現象に常に関心と疑問を持ち、学習したものと照らし合わせてみる事が大切である。</p> <p>評価方法：主に4回の定期試験で評価を行なうが、レポートの提出状況、授業態度等も加味する。</p>					
授業進度・内容					
時数	前期	時数	後期		
6	1. 地球の形と内部構造	8	5. 循環する大気と海		
8	2. 動く大地	6	6. 惑星の運動		
2	前期中間試験	2	後期中間試験		
6	3. プレートのきしみ	8	7. 太陽と恒星の世界		
8	4. 火山の噴火とマグマの活動	6	8. 宇宙、地球、われら人類		
2	前期末試験	2	学年末試験		

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態	
国語	M・E 村田秀明 C・B 金芳憲雄	3全	2	必	週2時間通年	
教科書・参考書等						
テキスト等：自主教材						
授業目標・授業方針・学習方法・評価方法等						
<p>授業目標：(1) 種々のジャンル、種々のタイプの文章に触れ、幅広い読解力を身につける。 (2) 社会人として必要な実用国語を身につける。 (3) 書きたいことをきちんと表現できる作文力を身につける。</p> <p>授業方針：演習とその確認を中心に行う。</p> <p>学習方法：受け身にならず、自らすすんで積極的にアプローチしよう。 その際、次のことを行うこと。 (1) 自ら疑問を抱き、自ら解を求める。 (2) 疑問から解に至るプロセスを(試行錯誤したこと全てを含めて)確認する。 (3) 自分の疑問の持ち方、解への方法、解の内容等の全てについて、妥当であったか否かをきちんと見極める。</p> <p>評価方法：年4回の定期試験の成績及び平常の試験や提出物の成績を総合して行う。</p>						
授業進度・内容						
前期			後期			
	読解その他	国語表現	漢字等	読解その他	国語表現	漢字等
	評論を読む	表現と理解	教育漢字を習得する	小説を読む	種々の文章を書く	常用漢字を習得する
		話すこと 聞くこと		韻文を読む 詩 短歌 俳句	手紙 記録 報告 説明 論説	同音異義語を習得する
	随筆を読む	文章を書く 主題 文章の構成 推敲	教育漢字を習得する			
	小説を読む		常用漢字を習得する			
前期中間試験			後期中間試験			
	随筆を読む	文章を書く 主題 文章の構成 推敲	教育漢字を習得する	シナリオを読む	種々の文章を書く	同音異義語 同訓異字語 故事成語 その他を習得する
	小説を読む		常用漢字を習得する	戯曲 落語	説明 論説 その他	
前期末試験			学年末試験			

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態
倫理	小林幸人	3全	2	必	週2時間通年
教科書・参考書等					
教科書：『倫理学・哲学概論』（学術図書出版社）					
※ 指定教科書は、四年生選択科目「文化史」でも使用予定です。					
授業目標・授業方針・学習方法・評価方法等					
<p>授業目標・方針：倫理学とは、「人の理」を追求する学問であり、問をたてる人間そのものが対象となるという特殊性を持つ。従って、他ならぬ我々自身を深く内省するとともに、我々の置かれている歴史的文脈そのものを問題としなければならない。この講義では、思想史を通じ、様々な考え方を理解した上で、自らの問題を考察することを目標とする。前期は、哲学的思考に慣れるために、ギリシア哲学を中心に紹介し、後期は現代社会において、倫理をどのように捉えるのかという問題を取り上げる。</p> <p>学習方法：講義を聴き、しっかりとノートをとる。様々な思想をただ覚えるのではなく、その思考過程を追体験することを心がける。自分の考え方に固執せずに、様々な観点から問題を考えられるようにする。</p> <p>評価方法：授業態度、試験、ノート、レポート等で評価する。試験は論述式で行う予定。</p> <p>*学内のHPを活用しますので、質問は積極的にこなって ください</p>					
授業進度・内容					
時数	前期	時数	後期		
2	ガイダンス 授業案内・倫理学について	6	現代社会を考える 人間形成と文化		
6	倫理学・哲学的方法について 倫理と道徳 倫理と哲学 倫理学の問のたてかた	4 8	現代社会と私たち 現代社会を考える 現代の倫理的課題 環境倫理 生命倫理 技術と人間		
4	西洋思想の源流 —初期ギリシアの倫理思想— 哲学の誕生 善く生きるということ		倫理とは何か —いかに生きるべきかという問い— 自律とは—自由を考える— 個人と他者との関係 —他者と共に生きる—		
6	ソクラテス	6			
6	プラトン	6			
6	アリストテレス				
※初期ギリシアを中心に紹介しますが、余裕があれば、中世～近代の哲学にも触れます。					

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態
数学	野入 隆 元田康夫 小原康博 五十川詠	3全	6(4)	必	週4時間通年
教科書・参考書等					
教科書：「新編 高専の数学2」 田代嘉宏 難波完爾 森北出版 「新編 高専の数学3」 田代嘉宏 難波完爾 森北出版					
問題集：「新編 高専の数学2問題集」 田代嘉宏 森北出版 「新編 高専の数学3問題集」 田代嘉宏 森北出版					
授業目標・授業方針・学習方法・評価方法等					
<p>授業目標：前期はまず、2年で残した場合の数を説明する。平均値の定理からテイラーの定理までをまず習得し、いろいろの不定積分を習得する。後期で定積分の応用および偏微分と重積分を習得する。</p> <p>学習方法：進度はゆっくりのようでも、まず確実に新しい知識が説明されるし、前に習った内容と関連があるので、消化不良を起こさないように予習・復習をしっかりとすること。特に問題を沢山解くことが大事である。</p> <p>評価方法：主に各種の試験（4回の定期試験、春季および夏季試験、その他各教官が行う試験）で評価を行うが、レポートの提出状況、出席状況、授業態度等も加味する。</p> <p>必要な予備知識：1年で習った初等関数の基本的性質および2年で習った微分法・積分法の基本的性質を十分に理解しておくこと。 数学教室は学生の積極的な質問を待っています。</p>					
授業進度・内容					
時数	前期	時数	後期		
6	「高専の数学2」 11 場合の数	16	5 定積分とその応用		
14	高専の数学3」 1章 微分法 1 平均値の定理	14	3章 偏微分と積分 6 偏導関数		
10	2 逆関数とその導関数	2	後期中間試験		
2	前期中間試験	12	7 偏導関数の応用		
6	2 逆関数とその導関数(続き)	8	8 重積分		
8	3 テイラーの定理	10	9 極座標と積分		
16	2章 積分法 4 いろいろな関数の不定積分	2	学年末試験		
2	前期末試験				

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態
数 学	元田康夫 五十川詔 小鉢暢夫	3全	6(2)	必	週2時間通年
教科書・参考書等					
教科書：「新編 高専の数学2」 田代嘉宏 難波完爾 森北出版 「新編 高専の数学3」 田代嘉宏 難波完爾 森北出版					
問題集：「新編 高専の数学2問題集」 田代嘉宏 森北出版 「新編 高専の数学3問題集」 田代嘉宏 森北出版					
授業目標・授業方針・学習方法・評価方法等					
授業目標：前期で行列と行列式の基本的事項を、後期で行列の固有値と対角化および微分方程式を習得する。					
学習方法：週1回しか講義がないから、特に実行して欲しいのは習った所はすぐに問題を解くようにし、わからない所を残さないようにしておくこと。					
評価方法：主に各種の試験（4回の定期試験、春季および夏季試験、その他各教官が行う試験）で評価を行うが、レポートの提出状況、出席状況、授業態度等も加味する。					
必要な予備知識：2年で習った平面や空間の図形とベクトルの基本的な定理や公式を充分に理解しておくこと。最後に微分方程式もやるので不定積分の計算が出来るようになっておくこと。 数学教室は学生の積極的な質問を待っています。					
授業進度・内容					
時数	前 期	時数	後 期		
8	「高専の数学2」 14 行列	8	17 行列の固有値と対角化		
6	15 1次変換 (1次変換、1次変換の積)	6	「高専の数学3」 10 1階微分方程式 (変数分離形、同次形)		
2	前期中間試験	2	後期中間試験		
4	15 1次変換 (1次変換の逆行列)	4	10 1階微分方程式 (線形微分方程式、完全微分方程式)		
10	16 行列式	10	11 2階微分方程式		
2	前期末試験	2	学年末試験		

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態
保 健 体 育	宅島 章 四宮一郎 河野宗夫 笹本勝義	3全	2	必	週2時間通年
教科書・参考書等					
副教材：適宜参考文献、資料等を配布する					
授業目標・授業方針・評価方法・学習方法等					
1. 高専生活をおくる青年期のこの時期は、心身ともに成長が著しい時期にあり、環境（運動・栄養・休養）の善し悪しが、各人の成長に大きく影響することは明らかである。そこで、健康の保持・増進を図るための環境情報について、的確に伝授するとともに科学的な理解を深めさせ、日常生活において実践する能力を養う。また、高専教育という集団生活の中で不可欠な指導性、協調性、公共性など人格向上を目指した授業を展開していきたい。さらに、スポーツ、レクリエーションを通じて余暇の善用と生涯体育への能力を養成したい。					
2. 授業時間不足については、原則として学年評価をしない。					
3. 定められた体育服及び体育館シューズを着用しないものについては、原則として授業に参加させない。また、危険防止のため指輪、ピアス、ネックレス等の装身具類の着用も禁止する。					
4. 公欠の届けは、体育科所定の用紙に記入の上、1週間前に担当教官に提出すること。					
3年生の保健体育は、男子3班、女子1班を編成し、テニス、サッカー、バスケットボール、ニュースポーツの4つの講座を巡回し、各担当教官の指導を受ける。					
各種目授業目的及び評価方法					
A. テニス（第1、第2テニスコート）：宅島 章					
[目的] テニスの醍醐味は、基本であるストローク、スマッシュ、サーブを修得し、ゲームを経験しなければ味わうことはできない。そのためには、技術、体力、マナーを早く身に付け、ゲームが早くできるように授業を展開したい。授業の進度は、パートナーとの技量度によって異なる。お互いに教え、励ましあい、より高度な技術をマスターして欲しい。					
[評価] 技術、マナー、出席状況を参考にする。					
B. サッカー（第2グラウンド）：四宮一郎					
[目的] 1) ミニサッカーの個人的技術および集団的技術を学び、ミニサッカーの特性を生かしたゲームを楽しめるようにする。 2) ミニサッカーに必要なルールを学び、審判はもちろん、ゲームの管理・運営ができる能力を養う。					
[授業内容] ○授業時の心得と約束、班編成 ○基本技術：ドリブル・フェイント・シュート等 ○2対2、3対3の攻防 ○リーグ戦					
[評価] 技術の習熟度、ゲームにおけるマナー、授業への参加態度、出席状況等を総合して評価する					
C. バスケットボール（第1体育館）：河野宗夫					
[目的] 基本技を重視し、特にパス、シューティングの技能を高め楽しくゲームが出来るようにすると同時に、バスケットボール競技の特性を生かし集団技の面白さとチームをまとめることの大切さ等を理解させる。					
[授業内容] 6つのグループを編成し、班別学習で行う。各班はチーム名とキャプテンを決め、第3週目より特別ルールによるリーグ戦を行う。					

授業目標・授業方針・評価方法・学習方法等	
<p>○バスケットボールの歴史及びルールの説明 ○バスケットボールに必要なフットワーク・ランニング及びダッシュ、ストップターン、ピボットの使い方など・ディフェンスのフットワーク（スライドステップ、クロスステップなど）○パス・対人パス・縦列パス（ランニング手渡しパスなど）・三角パス、四角パスなど○シューティング・ドリブルシュート・ランニングシュート・リバウンドシュート、フリースロー、ジャンプシュートなど○2対3及び3対3の攻防○ゲームの進め方及び審判法 [評価] 技能習得の進歩を実技テストと、出席及び授業への参加態度を考慮して評価する。</p>	
<p>D. ニューススポーツ（野球場、第2体育館）：笹本勝義 [目的] 1) 最近のスポーツが勝つためのスポーツから楽しむためのスポーツ、又生きがいのためのスポーツへと大きな変革を迎えようとしている。現在の人生豊かな背景に幸福を左右する重大な要素に気づき始めたのである。このニューススポーツはソフトボールをティーボールに、ゴルフをグランドゴルフに又バレーボールをソフトバレーにと各スポーツの技術を長時間かけてマスターすることなく、誰でも、いつでも、どこでも手軽にできるスポーツとして楽しむことができるのである。その楽しさが意欲や関心を増し、健康づくりや仲間づくりへと発展する態度を養うことを目的とする。 2) 必要なルールを学び、試合の管理・運営・審判ができる能力とゲームを楽しむ心の豊かさを養う [授業内容] 1) ティーボール（3週）：①オリエンテーション（目標、心得）、ルールと基本練習 ②基本練習と試合 ③試合 評価 2) グランドゴルフ（2週）：①ルールの説明、基本練習、競技会 ③競技会 評価 3) フリスビー（1週）：①ルールの説明と競技（距離投げ、的当て） 評価 4) ソフトバレー（2週）：①ルールの説明と基本練習 ②試合（班別対抗リーグ戦） 評価 [評価] 1) 基本技能とゲームの結果の総合評価 2) 授業への参加態度（意欲・協調性・安全面・積極性・ルールを守る態度）の評価 3) 健康な生活への取り組みと実践的態度の評価</p>	
授業進度・内容	
集団訓練及び体力テスト	4/17、4/24
1期	5/1 ～ 6/19 (8週)
1班	テニス、2班 サッカー、3班 バスケットボール、女子 ニューススポーツ
2期	9/4 ～ 10/23 (8週)
1班	サッカー、2班 バスケットボール、3班 ニューススポーツ、女子 テニス
3期	10/16 ～ 12/4 (8週)
1班	バスケットボール、2班 ニューススポーツ、3班 テニス、女子 サッカー
4期	12/18 ～ 2/19 (7週)
1班	ニューススポーツ、2班 テニス、3班 サッカー、女子 バスケットボール

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態
英語Ⅲ (総合英語)	宇ノ木寛文、 関 文夫	3年全	4	必	週4時間通年
教科書・参考書等					
教科書：『SPECTRUM English Reading』	塩澤利雄 他	桐原書店			
『コンパクト英語構文100』	南出康世 編	数研出版			
問題集：『SPECTRUM English Reading Workbook』		桐原書店			
『基礎と発展 英語構文ワーク100』		数研出版			
参考書：『Mastery 高校新基礎英語』	河上道生 他	桐原書店			
『WORD BANK 4000』	根岸雅史 他	桐原書店			
『White Fang』	Jack London	桐原書店			
授業目標・授業方針・学習方法・評価方法等					
<p>授業目標：英語で「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の4つのコミュニケーション能力について、基本的な技能・知識の習熟と完成を図り、各領域の応用・発展的な技能・知識の伸長に取り組む。</p>					
<p>授業方針：読解の指導については、速読による英文の概要把握のための具体的な読みのテクニックについて学ぶ。また、基礎・基本的文法事項については、これまで学んだ事項を構文ごとにまとめて整理することにより、その習熟と完成を図る。授業においては、学生の授業中の積極的な言語活動への参加を重視する。長期休暇中には、英語の読み物を課題として与える。また、語彙力増強のための指導や、基礎・基本的事項完成のための問題集による指導も随時行う。各長期休暇後にはそれらをもとに課題テストを実施する。</p>					
<p>評価方法：授業への積極的参加と、クラス全体の学習の深化に貢献する質問や言語活動への取り組みを高く評価する。そして、授業中の取り組み状況、定着度確認テスト、授業外で取り組む課題、加えて、定期考査を総合して評価する。</p>					
授業進度・内容					
時数	前期	時数	後期		
1 4	習熟を目指す読みの技術： 「フレーズ・リーディング」 題材：『SPECTRUM』Lessons 1～4 『コンパクト英語構文』で取り扱う箇所： 第1章 基本文型 第2章 It 中心の構文 第3章 不定詞を含む構文	1 4	習熟を目指す読みの技術：「スキミング」 題材：『SPECTRUM』Lessons 9～12 『コンパクト英語構文』で取り扱う箇所： 第8章 助動詞を含む構文 第9章 仮定法を含む構文 第10章 接統詞を含む構文 第11章 比較構文		
1 4	第1章 基本文型 第2章 It 中心の構文 第3章 不定詞を含む構文	1 4	第8章 助動詞を含む構文 第9章 仮定法を含む構文 第10章 接統詞を含む構文 第11章 比較構文		
2	前期中間試験	2	後期中間試験		
1 4	習熟を目指す読みの技術： 「キー・フレーズ・リーディング」	1 4	習熟を目指す読みの技術：「スキミング」		
1 4	題材：『SPECTRUM』Lessons 5～8 『コンパクト英語構文』で取り扱う箇所： 第4章 分詞を含む構文 第5章 動名詞を含む構文 第6章 関係詞を含む構文 第7章 否定構文	1 4	題材：『SPECTRUM』Lessons 13～16 『コンパクト英語構文』で取り扱う箇所： 第12章 読歩構文 第13章 無生物主語を含む構文 第14章 間接疑問、同格 第15章 強調・倒置 第16章 名詞構文、その他		
2	前期期末試験	2	学年末試験		

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態
English Conversation III	Gail Braybrooks	3年全	1	必	週1時間通年
教科書・参考書等					
Textbook: The teacher's hand-outs will be given to students.					
授業目標・授業方針・学習方法・評価方法等					
Goal: To learn English for conversation with English-speaking friends.					
Teaching methods: Topic-centered listening and speaking; 2-person conversation practice and games, as well as video lessons and music.					
Evaluation: Your grade will come from the 1st and 2nd semester tests. If you don't do the speaking lessons in class, you can lose points from your final grade.					
What to study: Understanding what you hear and answering back in English					
授業進度・内容					
時数	前期	時数	後期		
1	Introduction	1	Health/Eye analysis		
1	Canada video	1	"Find somebody who"		
1	Yatsushiro	1	Crossword Puzzle		
1	Shopping in America	1	Music		
1	Sports and Leisure	1	Treasure Hunt		
1	Cars	1	Dice Poker		
1	Friends	1	Dream House		
1	Love	1	Card Game: "Knock"		
1	Making Plans	1	Women and Men		
1	World Travel	1	4WD Road Race		
1	Life at Kosen	1	Mr. Bean Video		
1	Review	1	"Pictionary" Game		
1	Term Examination	1	Technology/Time Capsule		
		1	Superstitions/Astrology		
		1	Review		
		1	Term Examination		

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態
保健体育	宅島 章 四宮一郎 笹本勝義 坂川正信	4全	2	必	週2時間通年
教科書・参考書等					
副教材：適宜参考文献、資料等を配布する					
授業目標・授業方針・評価方法・学習方法等					
<p>1. 高専生活をおくる青年期のこの時期は、心身ともに成長が著しい時期にあり、環境（運動・栄養・休養）の善し悪しが、各人の成長に大きく影響することは明らかである。そこで、健康の保持・増進を図るための環境情報について、的確に伝授するとともに科学的な理解を深めさせ、日常生活において実践する能力を養う。また、高専教育という集団生活の中で不可欠な指導性、協調性、公共性など人格向上を目指した授業を展開していきたい。さらに、スポーツ、レクリエーションを通じて余暇の善用と生涯体育への能力を養成したい。</p> <p>2. 授業時間不足については、原則として学年評価をしない。</p> <p>3. 定められた体育服及び体育館シューズを着用しないものについては、原則として授業に参加させない。また、危険防止のため指輪、ピアス、ネックレス等の装身具類の着用も禁止する。</p> <p>4. 公欠の届けは、体育科所定の用紙に記入の上、1週間前に担当教官に提出すること。</p>					
各種目授業目的及び評価方法					
A. ゴルフ I・II（野球場および第2グラウンド）：宅島 章					
[目的]					
ゴルフプレーヤーは、若い人から実年者まで幅広く、体力・体格・性別を問わず楽しむことのできる比較的安全な紳士・淑女のスポーツである。しかし、マナーやルールを遵守しないと大きな事故を引き起こすことも多々あるので、まず安全第一の授業を展開する。					
[授業内容]					
第一段階①授業での約束ごと ②用具 ③グリップ ④スタンス ⑤スイング					
第2段階①ショート・アプローチ ②ミドル・アイアン ③ドライバー					
[評価] 紳士・淑女のスポーツらしく、服装やマナーと課題のスキルテスト及び出席状況等を参考ににする。					
B. 卓球（第二体育館）：坂川正信					
[授業内容]					
卓球は、基本技術の後は、単（A～H、各班5名程度）・複（A～D、各班6組）に分け、全てリーグ戦を行なう。					
[評価]					
毎週の戦績によって入れ替えを実施し、最終戦のランキングで決定する。なお、無断欠席は2階級ダウンとする。このほか授業の参加態度、準備・後かたづけも評価に加味する。					

授業目標・授業方針・評価方法・学習方法等	
C. バドミントン (第1体育館)：四宮一郎 [目的] 1) バドミントンの基本技術を習得し、それをダブルスやシングルの形態でプレー出来るようにする。 2) ゲームに参加していくための意欲や関心、態度、又自分の健康や安全への配慮だけでなく集団としての健康や安全に関して配慮する態度を養う。 3) 必要なルールを学び、試合の管理・運営・審判ができる能力とゲームを楽しむ心の豊かさを養う。 [授業内容] ○オリエンテーション (授業の目標、心得、約束ごと等)・グループ分け ○フライトの練習 (ドライブ、クリア、ヘアピン、ドロップ、スマッシュ) ○基本技術の練習 (フライト、各種サーブ、フットワーク)、半面の簡易ゲーム ○ルールの説明、試合の運営について ○ダブルスゲーム (A～F、各班5組)でのリーグ戦 [評価] ゲームの結果と授業への参加態度 (意欲、協調性、安全面、ルールを守る態度)及び健康な生活への取り組みと実践態度を考慮して評価する。	
授業進度・内容	
集団訓練及び体力テスト 4/18、4/25 1期 5/2 ～ 9/12 (10週) 1班 ゴルフ、2班 卓球、3班 バドミントン 2期 9/19 ～ 11/28 (9週) 1班 卓球、2班 バドミントン、3班 ゴルフ 3期 12/5 ～ 2/20 (9週) 1班 バドミントン、2班 ゴルフ、3班 卓球	

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態
英語Ⅳ (総合英語)	山田 章則	4年全	2	必	週2時間通年
教科書・参考書等					
教科書：『徹底対策 TOEIC TEST リーディング』		山下光洋 他	鶴見書店		
『徹底対策 TOEIC TEST リスニング』		山下光洋 他	鶴見書店		
参考書：『英語構文 150 New Edition』		岡田信夫 監修	美誠社		
『高校英語・フォーカス』			啓林館		
『標準英単語・フォーカス 3000』			啓林館		
授業目標・授業方針・学習方法・評価方法等					
授業目標：3年次までに修得した「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の4つのコミュニケーションの基礎的能力を、更に応用・発展的領域まで広げ、総合的な運用ができるようになることを目指す。スピーチ、ディスカッション、ディベート等の活動も取り入れて、実践的な英語の習熟を図る。					
授業方針：講義に加えて、LLやパソコン演習室での演習、ペアやグループによるコミュニケーション活動を行う。また、TOEICの問題演習を行う。あわせて、題材によっては、授業外の簡単なリサーチワークを課す。長期休暇中には、語彙力増強のための指導や、基礎的文法事項の整理のための指導も3年次までに引き続いて、随時行う。各長期休暇後には、課題テストを実施する。					
評価方法：授業への積極的参加と、クラス全体の学習の深化に貢献する質問や言語活動への取り組みを高く評価する。そして、授業中の取り組み状況、定着度確認テスト、授業外で取り組む課題、加えて、定期考査を総合して評価する。					
授業進度・内容					
時数	前期	時数	後期		
14	Introduction TOEIC Test Reading: Units 1 - 5 TOEIC Test Listening: Units 1 - 7 Authentic Teaching Materials	16	TOEIC Test Reading: Units 12 - 15 TOEIC Test Listening: Units 14 - 16 Authentic Teaching Materials		
2	Test	2	Test		
12	TOEIC Test Reading: Units 6 - 11 TOEIC Test Listening: Units 8 - 13 Authentic Teaching Materials	12	聴解力と表現力増強のための演習 (コンピュータを利用した英語学習)		
2	Test	2	Test		

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態
文化史	小林幸人	4全	2	選	週2時間通年
教科書・参考書等					
教科書：『倫理学・哲学概論』（学術図書出版社） その他、参考文献については授業中に紹介するほか、資料を配布する。					
授業目標・授業方針・学習方法・評価方法等					
<p>授業目標・方針：高度に複雑化した現代社会に生きる私たちにとって、自ら考え、行動するということが何より重要なこととなる。本講義では、思想史を通じて様々な立場の考え方を学び、何よりも自ら考える方法を身につけることを目標とする。</p> <p>学習方法：講義を聴き、しっかりとノートをとる。 説明を単に覚えるだけでなく、様々な思想が展開された歴史的状況・問題意識を踏まえた上で、理解し、追体験するよう心がける。</p> <p>評価方法：授業態度、試験、ノート、レポート等で評価する。 試験は記述式で行う予定。</p> <p>*授業進度は一応の目安。その他、質問などに応じて問題を取り扱う</p>					
授業進度・内容					
時数	前期	時数	後期		
2	イントロダクション 思想史を学ぶ目的と意義	6	実存主義思想		
		6	プラグマティズム		
4	近代哲学史 デカルト	6	分析哲学		
4	社会契約論	6	フランクフルト学派		
6	ドイツ観念論	6	現代社会をどのように捉えるか		
4	功利主義				
6	近代から現代へ 近代哲学の解体				
4	社会主義思想				

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態
日本文学・文章表現	村田秀明（前期） 金芳憲雄（後期）	4全	2	選	週2時間通年
教科書・参考書等					
テキスト：自主教材					
授業目標・授業方針・学習方法・評価方法等					
<p>授業目標：【前期】明治からの日本の代表的な小説、郷土の文学をとりあげ、多様な表現形式に触れることによって、文学に対する理解と認識を深める。 【後期】実用的な国語力を総合的に高める。</p> <p>授業方針：【前期】すぐれた作品を読むことによって、そこに語られていることを正しくとらえていく過程を積み重ね、近代の小説の読解と鑑賞の力を養いたい。 【後期】ドリル形式で国語力をチェックし、補強すべき分野を自覚させる。</p> <p>学習方法：【前期】読解時、内容を段階的にとらえたり、問題点を引き出ししたりしながら、作品全体の把握に努め、さらに日本の近代との関連についても考える。 【後期】各自、補強すべき国語力をドリルを通して分野別に補強する。</p> <p>評価方法：定期試験とレポート等の成績を総合して行う。</p>					
授業進度・内容					
前期			後期		
	「杜子春」（芥川龍之介） 「赤西蠣太」（志賀直哉） 「恩讐の彼方に」（菊池寛） 「名人伝」（中島敦）			実用的な国語力を高める 漢字・語句・敬語・文法・ 読解・表現等の学習	
前期中間試験			後期中間試験		
	郷土の文学 「阿部一族」（森 鷗外） 「人吉城の巡見使」（南條 範夫） 「彦市ばなし」（木下 順二） 「肥後の石工」（今西 祐行）			実用的な国語力を高める 漢字・語句・敬語・文法・ 読解・表現等の学習	
前期末試験			学年末試験		

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態
法 学	山中 至	4全	2	選	週2時間通年
教科書・参考書					
教科書：「法の世界へ（第2版）」池田真朗ほか 有斐閣 2000 「ディリー六法 2001」佐藤幸治ほか 三省堂					
参考書：授業の際に案内					
授業目標・授業方針・学習方法・評価方法等					
<p>授業目標：現代社会の中で生起するさまざまな問題を「法」という眼でみつめるための基礎理論を提供することを目標にします。</p> <p>授業方針：社会生活・家庭生活・職業生活で最低限知っておきたい法律知識や考え方を、日常身近な問題との関わりの中でわかりやすく解説します。</p> <p>学習方法：「覚える」のではなく「自分で考える」学習を心掛けて下さい。</p> <p>評価方法：主として、論述式の定期試験により講義内容の理解度を判断、評価します。</p>					
授業進度・内容					
時数	前 期	時数	後 期		
10	1 日常生活と契約 契約と民法、 意思表示と契約主体の能力、 契約自由の原則と典型契約、 所有権移転、連帯保証	8	4 家族関係 婚姻、離婚、親子、扶養、相続		
10	2 日常生活とアクシデント 不法行為と民法・自賠法、 医療行為とインフォームド・コンセント、 製造物責任、訪問販売法・割賦販売法	8	5 企業と法 企業、会社、商人、株主、取締役、 株式市場、インサイダー取引		
10	3 雇用と法 労働基準法、労働契約、憲法27条、 憲法28条、労働基準監督署、 労使協定、就業規則、 労働関係の多様化	6	6 紛争の解決 紛争、裁判、和解・調停・仲裁		
	前期末試験		7 法学フラッシュ 一般法と特別法、判例法、法解釈、 公法と私法、民事責任と刑事責任、 憲法、自己決定権、プライバシー権、 生存権、裁判を受ける権利、 外国人と人権		
			学年末試験		

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態
経 済 学	時松雅史	4全	2	選	週2時間通年
教科書・参考書等					
教科書：『経済原論』日高 晋 有斐閣					
プリント資料配布					
授業目標・授業方針・学習方法・評価方法等					
<p>授業目標：経済学がどのような学問かを学生に知ってもらうとともに資本主義経済に貫徹する諸法則を理解する。さらに現代の社会現象を経済学的に整理できる能力を養う。後期は、日本経済の発達を概観しながらその変容について理解する。</p> <p>授業方針：教科書の通読を中心とし、それを補足するプリントを読み理解していく。夏休みには経済小説等の感想文を課題とする。また、ビデオを使用することで授業の補足にしたい。</p> <p>学習方法：授業の説明をよく聞き、教科書、ノートをよく読むこと。</p> <p>評価方法：定期試験と夏休みの感想文により評価を行う。</p>					
授業進度・内容					
時数	前 期	時数	後 期		
4	序 論 経済学とは何か	4	第三篇 分配論 利潤について		
8	第一篇 流通論 商品、貨幣、資本について	4	地代、利子について		
	前期中間試験	6	日本経済史 江戸時代のモノの流れと信用制度 の発達		
6	第二篇 生産論 資本の生産過程	4	明治維新と諸改革 工業化による農村の変化		
4	資本の流通過程	1 2	昭和経済史 戦後復興と高度経済成長		
8	資本の再生産過程		学年末試験		
	前期末試験				

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態
ドイツ語	目 正勝	4全	2	必	週2時間通年
教科書・参考書等					
教科書：「そよ風のドイツ語」 斎藤佑史 ^他 著、三修社 辞書：「新アポロン独和辞典」 根本道也 ^他 編、同学社					
授業目標・授業方針・学習方法・評価方法等					
<p>授業目標：ドイツ語の文法の基礎を身につけて、ドイツ語文を辞書を引きながら和訳したり、簡単な日本語文を独作文したりすることができるようになることを目標とする。</p> <p>授業方針：テキストに従いながら進み、各課の本文の和訳や練習問題などの発表をしてもらう。</p> <p>学習方法：練習問題を数多くして理解を深める。</p> <p>評価方法：試験に拠るほか、レポートの提出状況、授業態度なども加味する。</p>					
授業進度・内容					
時数	前期	時数	後期		
1-3週	発音、辞書のひき方、動詞の現在人称変化など。	1-3週	話法の助動詞。		
4-6週	名詞、冠詞類。	4-6週	過去と現在完了、形容詞の用法。		
7-9週	代名詞、会話体の文。	7-9週	受動態、分詞、zu不定詞。		
10-12週	前置詞、命令形など。	10-12週	関係代名詞など。		
13-15週	動詞の三基本形、動詞の位置。	13-15週	接続法。		

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態
中国語	宮崎龍介	4全	2	必	週2時間通年
教科書・参考書等					
教科書：「学ビテ時ニ之ヲ習フ」 相原茂 他著、好文出版 辞書：「プログレッシブ中国語辞典」 小学館					
授業目標・授業方針・学習方法・評価方法等					
<p>授業目標：中国語の基礎文法と基本構文、簡単な日常会話の習得をめざすとともに、言葉の背景にある中国の人、文化、社会に関心を持つ。</p> <p>授業方針：予習を前提にどんどん指名し、大きな声で発音練習をすることにより、中国語のリズムを体得する。</p> <p>学習方法：付属のCDを活用することにより、自宅学習を確実にすること。</p> <p>評価方法：定期試験と平常点との総合評価。</p>					
授業進度・内容					
時数	前期	時数	後期		
2	ガイダンス／中国語のアウトライン	4	年月日・曜日		
10	発音（母音・子音・声調） ローマ字表記	4	変化の“了”・比較		
2	人称代詞・名前の言い方	4	時刻・前置詞		
2	前期中間試験	2	後期中間試験		
4	動詞述語文・形容詞述語文	4	経験の“过”・助動詞		
4	指示代詞・“有”	4	様態補語		
4	量詞	4	結果補語・方向補語		
2	反復疑問文・選択疑問文	2	進行の“在”・持続の“着”		
2	前期期末試験	2	後期期末試験		

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態
哲学	小林幸人	5全	2	必	週2時間通年
教科書・参考書等					
<p>必要に応じて適宜、印刷物を配布する。 参考文献：『現代哲学を学人のために』（世界思想社） 『現代哲学への招待』（『有斐閣選書』） ※ 昨年度「文化史」を選択した学生は、テキストをそのまま参考文献として使用しますが、選択していない学生は必ずしも購入する必要はありません。</p>					
授業目標・授業方針・学習方法・評価方法等					
<p>授業目標・方針：様々な問題に対して、実際に哲学的な考察をおこなうことを目標とする。従来、どのような考え方が示されてきたのかを概観しながら、提示される問題に対してそれぞれが実際に「哲学する」ことを試みる。</p> <p>学習方法：講義を聴いて、しっかりとノートをとる。 様々な思想を覚えるのではなく、その立場に立ったとき、どのような考え方が出来るのかを理解し、実践しよう心がけること。</p> <p>評価方法：授業態度、試験、ノート、レポート等で評価する。 試験は論述式で行う予定。</p> <p>*授業進度は一応の目安。適宜質問等に応じて、問題を取り上げたい。</p>					
授業進度・内容					
時数	前期	時数	後期		
4	ガイダンス 授業の進め方(予定している問題) 文献案内	4	科学技術と人間 近代科学の精神		
	認識の方法	4	技術化と人間性 (M.ハイデガーの技術論)		
2	主観と客観		合理性の問題		
2	現象学的方法	4	世界の合理化		
2	解釈学的方法		システムと生活世界		
2	プラグマティズム	4	多元的社会を生きる 価値相対主義		
6	言語と世界		個人と社会		
6	真理とは何か	8	G. H. ミードの自我論 コミュニケーションと自己、他者、世界		

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態
人文社会特論 (美術史)	佐藤伸二	5全	2	必	週2時間通年
教科書・参考書等					
<p>教科書：使用せず、プリント資料配布 参考書：『やきもの』 吉田光邦 NHKブックス 『やきもの文化史』 三杉隆敏 岩波新書 『中国陶磁史』 佐藤雅彦 平凡社</p>					
授業目標・授業方針・学習方法・評価方法等					
<p>授業目標：日本人はやきもの好きで、日常生活でのかわりは深い。日本のやきもの特色を理解させ、それを通して日本人の美意識について考えさせる。</p> <p>授業方針：やきものに関する用語や分類等の基本的な知識を身につけさせ、陶磁全集等の写真を見せ、やきものを見る目を養わせる。授業後には毎回短い感想を書かせる。</p> <p>学習方法：説明をよく聞き、写真ををよく見ること。</p> <p>評価方法：年4回の定期試験と授業後に書かせた感想により評価を行う。</p>					
授業進度・内容					
時数	前期	時数	後期		
4	1. やきものの分類と特色	2	5. 日本のやきものの歴史と特色		
4	2. やきものの原料と製作法	5	(イ) 先史時代の土器		
		5	(ロ) 古代の土器と陶器		
		6	(ハ) 中世の陶器と瀬戸焼		
6	3. 中国のやきものの歴史と特色	6	(ニ) 近世のやきもの		
	(イ) 磁器の成立	2	後期中間試験		
2	前期中間試験	4	6. 茶の湯の美意識とやきもの		
4	(ロ) 染付の成立	4	7. オランダへ輸出された日本のやきもの		
4	(ハ) 五彩の成立	2	8. やきものに見る日本の美		
	4. 朝鮮半島のやきものの歴史と特色	2	学年末試験		
	(イ) 高麗の青磁・白磁				
	(ロ) 李朝の白磁・染付	2			
2	前期末試験				

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態
人文社会特論 (言語学)	今西利之	5	2	必	週2時間通年
教科書・参考書等					
プリント資料を配付します。 ※ テキストを使用する場合は、講義中に指示します。					
授業目標・授業方針・学習方法・評価方法等					
<p>私たちの母語であり、日常生活の中で無意識のうちに使っている日本語という言語を意識的に見つめなおし、そこに隠されているさまざまな仕組みを考えていきます。講義中は自分の五感をよく働かせて、思いついたことや考えたことなどを積極的に発言してください。</p> <p>評価は、定期テスト、出席状況を見て総合的に判断します。またレポートを提出してもらうこともあります。</p>					
授業進度・内容					
時数	前期	時数	後期		
	学校文法について 日本語の音声・音韻 日本語の意味・語彙 方言 計量的考察		日本語の文法 日本語学で用いられる基礎的な概念を紹介し、日本語の分析方法を学びます。		

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態
健康科学	宅島 章 四宮一郎	5全	2	選	週2時間通年
教科書・参考書等					
副教材：適宜参考文献、資料等を配布する					
授業目標・授業方針・評価方法・学習方法等					
<p>[学習方法] 選択履修者は、第一体育館に集合（資料、筆記用具、体育服着用）し、健康科学に関する講義（前期担当 宅島 章、後期担当 四宮一郎）を受講する。その後、Aコースはゴルフ（担当、宅島 章）Bコースはレクリエーション（バドミントン・ローラースケート。担当、四宮一郎）に分かれる。</p> <p>近代化が進んだ文明国における労作は、ヒトに代わって全て機械が行っていると言っても過言でない現状にある。その機械化の浸透は、私たちの日常における身体活動を行う機会を奪い、自らの高い体力は要求されず、もっぱら機械にたよる日常生活に移行している。その結果、ヒトは知らず知らずの内に、その環境に適応し身体における筋・骨格系、心臓血管系などの機能を低下させている。身体活動の減少による弊害、すなわち生活習慣病を未然に防ぐには日常生活において積極的に運動を行うことが望ましい。しかし、運動はすれば良いというものではなく、やり方次第では逆に健康を損なうこともある。そこで、本講義においては健康やかな人生を送るための生涯体育という見地より自己測定などを折り込みながら、展開していきたい。</p> <p>前期講義：健康・スポーツ科学概論 1. 現代人の健康 2. 健康づくりと運動 3. 運動と栄養 評価は、6月の前期中間試験と9月の自己測定等を含めたレポート（テーマは、後日発表）によって行う。</p> <p>体力や競技力を向上させるためには、トレーニングが欠かせないものであることは言うまでもない。しかし、全ての人が自分に適切なトレーニング法を理解しているかは疑問である。トレーニングにおいては、体力と技術の関連をよく理解して、目指す体力や技術が最も効率的に十分に高められる方法を用いてトレーニングしていくことが望まれる。そこで本講義では、一般の人から競技者までを対象としたトレーニング方法やその効果についても理解を深め、実践できる能力と態度を育てたい。</p> <p>後期講義：トレーニング論 1. 運動処方 2. 運動のやり方 3. 体力とトレーニング 評価は、後期中間試験とトレーニングに関するレポートによって行う。</p> <p>Aコース：4年生までに学習したゴルフを基礎に、学外のゴルフ・コースにてプレーができるルールマナー、応用プレー等を修得し、秋（11月）と春（3月）に開催予定の本校学生ゴルフ・コンペに参加できる技量を身につける。評価は、授業に取り組む姿勢（技術習得への研究心や服装・マナー等）と各種スキルテストによって行う。</p> <p>Bコース：バドミントンにおいては4年次に学んだ基本技術をさらに高め、ダブルス、シングルスゲームを楽しむ。また、ローラースケートにおいては基本的な滑走技術を習得し、基本滑走を組み合わせたプログラムを作り、スケーティングを楽しむことが出来るようにする。評価は技術の習熟度、ゲーム結果（バドミントン）と出席状況及び授業参加態度等を考慮して評価する。</p>					

授業進度・内容	
<p>Aコース：ドライバーとミドルアイアン。 ショートアイアンとバンカーショット。 コース想定レッスン。 秋季学生コンペ 高専祭代休日 八代ゴルフ倶楽部 各人の技術向上レッスン 春季学生コンペ 八代ゴルフ倶楽部</p>	
<p>Bコース：バドミントン（前期） バドミントンの基本ショット（ドライブ、クリア、ヘアピン、ドロップ、スマッシュ） フットワーク 総合技術の練習（各種ショット、サーブ、フットワーク） 半面シングルスゲーム ダブルス、シングルスゲーム</p> <p>ローラースケート（後期） 基本動作（基本姿勢、自然滑走） 前進滑走の技術（両足の推進滑走、ひょうたん滑走、フォアストローク） バック滑走の技術（両足バック滑走、バックのひょうたん滑走、バックストローク） カーブ滑走の技術、ストップの技術、ターンの技術</p>	

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態
ドイツ語	目 正勝	5全	2	選	週2時間通年
教科書・参考書等					
教科書：「ニーベルンゲン」ロベルト・シンチンゲル著、東洋出版					
授業目標・授業方針・学習方法・評価方法等					
<p>授業目標：平易な読み物を読んでゆきながらドイツ語の読解力を養う。</p> <p>授業方針：テキストの和訳を発表してもらい、それを検討してゆく。 文法についても詳しく見てゆく。</p> <p>学習方法：文法に関連した練習問題を数多くすることによって理解を深める。</p> <p>評価方法：定期試験、平素の学習成績を考慮して行う。</p>					
授業進度・内容					
時数	前 期		時数	後 期	
	(中間試験まで) テキストの和訳。1回1～2ページ ずつ読んでゆく。			(後期中間試験まで) テキストの和訳。文法の説明の補足。	
	(前期末試験まで) テキストの和訳。 接続法を学習する。			(学年末試験まで) テキストの和訳。テキストの内容と 関連した事柄。	

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態
中国語	宮崎龍介	5全	2	選	週2時間通年
教科書・参考書等					
教科書：「中国語のひととき」 関根・陳 著、朝日出版社					
授業目標・授業方針・学習方法・評価方法等					
<p>授業目標：既習の文法事項をふまえて、短い散文を読んで中国語の表現の豊かさを味わうと共に、ヒアリング力・会話力を身につけていく。</p> <p>授業方針：毎回全員指名を原則とする。予習が不可欠である。</p> <p>学習方法：声を出して発音し、どんどん暗誦する。</p> <p>評価方法：定期試験と平常点との総合評価。</p>					
授業進度・内容					
時数	前期	時数	後期		
2	発音の復習	14	いろいろな能願動詞		
12	いろいろな補語 ・方向補語 ・可能補語 ・程度補語 ・結果補語				
2	前期中間試験	2	後期中間試験		
14	いろいろなアスペクト ・完了 ・経験 ・進行 ・持続	14	いろいろな構文 ・存現文 ・連動文 ・兼語文 ・受け身文		
2	前期期末試験	2	後期期末試験		